



## エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2012年3月31日

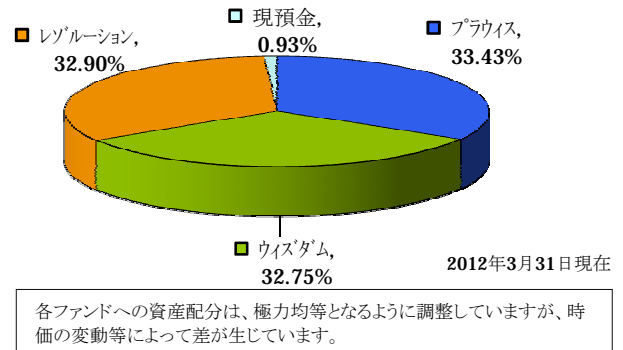
## 基準価額騰落率推移 (諸費用控除後)

2012	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	0.28%	1.22%	-0.21%										1.29%
2011													
騰落率												12月	年初来
												-0.14%	-0.14%

## 運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2012年3月31日	
基準価額:	10,115円	対前月比 -21円
純資産総額:	687百万円	対前月比 +5百万円
設定来高値:	10,136円	
設定来安値:	9,986円	
期間別	3ヶ月	1.29%
基準価額騰落率	6ヶ月	-
設定来	ファンド	1.15%
基準価額騰落率	TOPIX	18.08%
	日経平均	20.02%

## 投資対象ファンドへの資産配分



## 投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後)

2012	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	1.41%	2.60%	-0.28%										3.75%
ウィズダム	0.56%	1.10%	-0.02%										1.64%
レゾリューション	0.24%	1.12%	0.73%										2.10%

※ 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1 (以下「HFS」という) にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。

## 相場動向

3月の株式相場はTOPIXで+2.20%の854.35ptとなりました。ギリシャ問題への対応の進展や米景気の回復期待、円安を材料として、前月、前々月に引き続き上昇となりました。

月初はギリシャの債務交換に対する懸念から相場は弱含んで始まりましたが、次第に楽観的な見方が広まると上昇に転じ、13日にFRBが景気見通しを引き上げたこともあり、日経平均が終値で10,000円を回復するなど、月央は堅調な展開となりました。その後月末にかけては中国をはじめ世界景気への先行き不安感もあり、横ばいと

なりました。

ドル円相場は81円台前半ではじまり、月初に円高方向へ振れる局面もあったものの、ギリシャ問題への楽観が強まると円安基調に転じ、月中には83円台後半まで円安が進行しました。その後中国とドイツのPMIが悪化したことをきっかけに円安基調は一服し、82円台で月を終えました。

セクター別では小売業、食料品、精密機器が上昇率上位となり、鉱業、証券業、紙・パルプが下落率上位となりました。

## 投資対象ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

## 【プラウイス】

## &lt;ファンド運用状況&gt;

3月の運用成績はJPYクラスで-0.28%でした。マイナスとなった要因として①月を通してモメンタムが強く、リターン・リバーサルが効かなかったこと、②低PBRの銘柄が相対的にアンダーパフォームしたこと、③3月中旬以降高小売株やディフェンシブ株の上昇率が高かったことなどがあげられます。

セクター別の損益は電機、小売リセクターでマイナスとなり、陸運、電力ガスセクターでプラスとなりました。

## &lt;今後の市況見通し及び投資戦略&gt;

4月の株式市場は急ピッチの上昇に対する警戒感や円安傾向の一服もあり、短期的には調整する可能性が高いと考えます。4月下旬には決算発表が本格化することから、4月中旬以降は様子見気分の強い相場展開を想定します。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

## 【ウィズダム】

## &lt;ファンド運用状況&gt;

3月の運用成績はJPY-Fクラスで-0.02%でした。年度末に向けた国内金融機関の売りが増加する中、出遅れ低PBR銘柄のパフォーマンスが相対的に劣化したことや小売リ・機械セクターのショート銘柄の上昇によりほぼフラットの収益となりました。

個別銘柄レベルでは、ロングポジションではキリン(HD(2503))、ファミリーマート(8028)、ショートポジションではダイキン工業(6367)、三井化学(4183)がプラス収益に寄与しました。

## &lt;今後の市況見通し及び投資戦略&gt;

4月の株式市場は横ばいを予想します。市場上昇スピードの調整から短期的に下落する可能性が高まっていると考えられます。しかしながら、4月下旬から始まる国内企業の本決算開示で当期業績に安心感が拡がれば見直し買いが期待されます。

今後の投資戦略につきましては、クオンツモデルとトップアナリストによる投資評価の双方を活用し、銘柄選択により安定的な収益を目指します。

## 【レゾリューション】

## &lt;ファンド運用状況&gt;

3月に入ると高値警戒感から下げる局面もありましたが、円安の進展とともに輸出関連株を中心に上昇し、月後半には小型株への資金流入が見られました。一方、インターネット関連銘柄のバリュエーション低下が顕著であり、マザーズ指数の低迷が目立ちました。

全体として、株価モメンタムの強い傾向が見られ、先月までの単純なリバーサル傾向は弱まりました。

月初より景気敏感株の小型株ウェイトをやや高めにしていますが、大型株に比べあまり好まれない一方、自律成長性の高い内需小型株の組入が奏功しました。

割安なアーレスティ(5852)や受注が好調なタケエイ(2151)のロング、ソーシャルゲーム銘柄のショートなどがプラス寄与しました。

## &lt;今後の市況見通し及び投資戦略&gt;

金融相場のなリスク選好による株価水準訂正が一服し、よりファンダメンタルの変化に応じた値動きが想定されます。

先々月より相対的な小型株劣位が続いていたため、低流動性であっても割安な銘柄を中心に銘柄組入を進めてきました。引き続き同様なポジションを志向しますが、単純な割安修正からより成長性を重視した銘柄選択を進めます。

当面は、市場環境の変化や内部要因の把握に努め、成長力や競争力といった中期的な視点により割安銘柄と割高銘柄の選別を進めます。

全体として、大きな業種リスクを取らず、バリュエーションを重視したポートフォリオとします。



# エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

## 投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	ダイワ・ヨーロッパ・ファンド・マネージャーズ・アイルランド・リミテッド
保管銀行:	ダイワ・セキュリティーズ・トラスト・アンド・バンキング(ヨーロッパ)ピーエルシー
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:(社)日本証券投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会 <a href="http://hedgefund-sec.com/">http://hedgefund-sec.com/</a>

## 金融商品取引法に基づく表示

### 商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号

### 当社が加入する協会等について

社団法人 日本証券投資顧問業協会 加入 第011-01395号

### ご留意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書(交付目論見書)をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。  
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

**当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。**

**投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書(交付目論見書)をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。**